

## 審判テクニカル

— Q & A2003Ver.1.0 —

(問 1) 外野手がわざとワンタッチして外に出すと言う行為が度々見受けられるが、これは何とかならないか。
(問 2) ワンバウンドしたボールをアタックとしている審判員がいるが、ルールブック等に記載されないか。
(問 3) タイムアップ後、主審が内野人数確認中、内野選手が、ジャッジに不服で主審を突き飛ばし、即、レッドカードで退場になった場合、退場になったその内野選手は内野人数にふくまれるのか。
(問 4) タイムアップ後、主審が内野人数を確認し、オフィシャルに内野人数をコールした後に内野選手が主審を突き飛ばしレッドカードで退場になった場合、退場になったその内野選手は内野人数に含まれるのか。また、その選手は次の試合に出場できるのか。
(問 5) 残り時間 40 秒、アタック成功した外野選手が内野復帰しようと主審、副審の横まで移動したが、ボールデッドになってもコート内へ入らず、タイムアップになってからコートに入った。この内野復帰は認められるか。
(問 6) アタック成功し自内野コートへの復帰を待機している選手が、最後の内野手になった場合、主審はタイムを取り選手を内野復帰させ守備体勢が整ってからタイムインの笛を吹くようにしたらどうか。
(問 7) 内野 (外野) 選手が投球したボールが相手内野プレイヤーに当たり、はね返ったノーバウンドのボールが偶然に投球したチームの外野プレイヤーのユニフォームに掠り、そのままアウトオブバウンズになった。この時のボールの支配権は。
(問 8) アタックされ内野選手に当たったボールが大きく跳ね返り、ノーバウンドでアタックされたチームの味方外野選手がファールなくキャッチした。この場合、アシストキャッチは成立するのか？
(問 9) 質問 7 の状態で、外野選手がキャッチできずにワンタッチした場合の判定および支配権は？
(問 10) アウトになった内野選手が、外野への移動中に自内野コート内で偶然アタックやパスのボールに当たりそのままアウトオブバウンズになった場合の判定および支配権は。
(問 11) インプレイ中、片足をインプレイゾーンから出していた選手が、そのまま走り込んでボールキャッチに関わる場面があるが、ファールの適用はできないか。
(問 12) アタック成功し自内野コートへの復帰を審判員の後方にて待機している選手が、ボールデッドゾーンに転がり出そうになったルーズボールをその瞬間に内野復帰しキャッチしてプレイした場合、不自然な状態が発生する可能性がある。「内野復帰の際には自コートのボールに触れてはならない」などのルールをつくれぬか。
(問 13) ラインを踏んでいる選手がアウトになった場合、アウトに加えオーバーラインのファールをとられるのか。
(問 14) インプレイゾーンでのアウトプレイ中の選手にアタックした場合の判定は。

## 審判テクニカル

— Q & A2003Ver.1.0 —

<p>(問 15) ボールデッドゾーンでのアウトプレイ中の選手にアタックした場合の判定は。</p>
<p>(問 16) インプレイ中、ゲーム進行から遅れて線審からタイムの要求があり、協議の結果、判定がゲーム進行より戻る場合があるが、この時の試合再開はどのようなになるのか。</p>
<p>(問 17) 外野からの投球をキャッチした内野Aプレイヤーが攻撃に移ろうとしてドリブルをした。この時、主審は内野Aがボールを落としたと判定し、遅れてアウトコールをした。また、ドリブルしていたため、ダブルタッチファールを取り、ボールの支配権を相手チームの内野へ移動させた。この判定は正しいか。</p>
<p>(問 18) ジャンパーがタップしたボールがプレイヤーに触れずそのままボールデッドとなり内野から試合再開され、その第1投目が、相手ジャンパーをアタックしアウトにした。主審は「ジャンパーアタック」ファールでセーフとしたが正しいか。</p>
<p>(問 19) 試合残り約1分の時点で、明らかに勝ち逃げのため、攻撃をかけずに時間稼ぎと思えるパスを繰り返した。主審を含む審判団（6人）は、遅延行為ではと思いつつ判定を下さず試合は終了した。このような状況の時、コートマスターは、オフィシャルタイムアウトを取り、主審に遅延行為の判定を下すように促すべきではなかったか。</p>

## 審判テクニカル

— Q & A2003Ver.1.0 —

(問1) 外野手がわざとワンタッチして外に出すと言う行為が度々見受けられるが、これは何とかならないか。

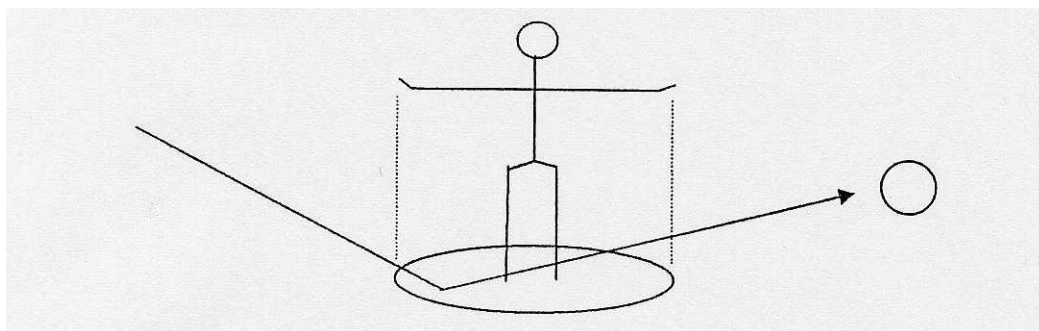
(答) 公式規則では、故意であるかないかは規定されていない。

### ※ルール第809条 ボールの支配権 2) ①

「最後にボールに触れたプレイヤーが外野プレイヤーの場合、その際にファールすることなく手でボールに触れた場合そのプレイヤーに支配権が発生する。(ワンタッチ)・・・」

(問2) ワンバウンドしたボールをアタックとしている審判員がいるが、ルールブック等に記載されないか。

(答) ワンバウンドボールであっても次の場合はアタックである。



### ※ルール第802条 アタック 1) ②

「内野プレイヤーの広げた両手の内側の範囲をボールが通過したと認められる軌道であること。」

(問3) タイムアップ後、主審が内野人数確認中、内野選手が、ジャッジに不服で主審を突き飛ばし、即、レッドカードで退場になった場合、退場になったその内野選手は内野人数にふくまれるのか。

(答) 内野人数に含まれる。

公式規則では、セット終了時、内野に残っているプレイヤーが多い方のチームが勝利を得ることになり、タイムアップで試合終了と規定されている。よって、この場合、試合終了後に退場になっても勝敗判定の時点では内野に残ったプレイヤーである。

ただし、退場処分とするか失格処分とするか主審は適当な判定をしなければならない。失格処分とした場合、その後の試合に参加できない。

### ※ルール第702条 試合形式 5)

「・・・セット終了時、内野に残っているプレイヤーが多い方のチーム・・・が勝利を得る。」

## 審判テクニカル

— Q & A2003Ver.1.0 —

(問4) タイムアップ後、主審が内野人数を確認し、オフィシャルに内野人数をコールした後に内野選手が主審を突き飛ばしレッドカードで退場になった場合、退場になったその内野選手は内野人数に含まれるのか。また、その選手は次の試合に出場できるのか。

(答) 問3の答えのとおり

(問5) 残り時間40秒、アタック成功した外野選手が内野復帰しようと主審、副審の横まで移動したが、ボールデッドになってもコート内へ入らず、タイムアップになってからコートに入った。この内野復帰は認められるか。

(答) この場合、内野復帰は認められない。

公式規則では、セット終了時、内野に残っているプレイヤーが多い方のチームが勝利を得ることになり、タイムアップで試合終了と規定されている。

内野への復帰権を得た外野プレイヤーが、ボールデッドゾーンから自内野エリアへ入るタイミングに関する罰則はない。しかしながら、速やかに内野へ戻る行動を起こさない場合は、主審の判断で「内野復帰できない」として差し支えない。

上記の主審の判断の基準は次のとおりである。

- ①ボールデッドになっても内野復帰しない場合。
- ②自チームにボールの支配権があるにもかかわらず内野復帰しない場合。
- ③主審が内野復帰のタイミングを促しても内野復帰しない場合。

### ※ルール第702条 試合形式 5)

「・・・セット終了時、内野に残っているプレイヤーが多い方のチーム・・・が勝利を得る。」

(問6) アタック成功し自内野コートへの復帰を待機している選手が、最後の内野手になった場合、主審はタイムを取り選手を内野復帰させ守備体勢が整ってからタイムインの笛を吹くようにしたらどうか。

(答) アウトを取った外野プレイヤーは内野への復帰権を得るが、ボールデッドゾーンで内野復帰のタイミングを見ているプレイヤー(待機プレイヤー)はこの時点では、内野プレイヤーではない。よって、このプレイヤーが内野プレイヤーになる前に、内野にいる最後のプレイヤーがアウトになった時点で、セット終了となるため、待機プレイヤーは内野へ復帰することはできない。この場合の待機プレイヤーは最後の内野プレイヤーは最後の内野プレイヤーではない。

### ※ルール第804条 アウト 4)

「アウトを取った外野プレイヤーは内野への復帰権を得る。」

### ※ルール第702条 試合形式 5)

「セットの勝敗は・・・相手の内野プレイヤーを全員アウトにしたチームが勝利を得る。」

## 審判テクニカル

— Q & A 2003 Ver.1.0 —

(問7) 内野(外野)選手が投球したボールが相手内野プレイヤーに当たり、はね返ったノーバウン  
ドのボールが偶然に投球したチームの外野プレイヤーのユニフォームに掠り、そのままア  
ウトオブバーンズになった。この時のボールの支配権は。

(答) ボールが掠った外野選手の相手の内野に移動する。

この場合、最後にボールに触れたプレイヤーは外野プレイヤーであるため。ボールがユニフ  
ォームに掠った場合もボールに触れたものと解釈する。

### ※ルール第809条 ボールの支配権 2) ①

「最後にボールに触れたプレイヤーが外野プレイヤーの場合・・・ボールの支配権は相手の内野へ移動す  
る。」

(問8) アタックされ内野選手に当たったボールが大きく跳ね返り、ノーバウンドでアタックされ  
たチームの味方外野選手がファールなくキャッチした。この場合、アシストキャッチは成  
立するのか？

(答) アシストキャッチは成立する。

公式規則に記されている、この条項の「味方プレイヤー」には外野プレイヤーも該当する。

### ※ルール第805条 アシストキャッチ 1)

「・・・ボールが空中にある間に、味方のプレイヤーまたは当てられたプレイヤー自身がノーバウンドで  
ファール無くキャッチしたことをいい・・・」

(問9) 質問7の状態、外野選手がキャッチできずにワンタッチした場合の判定および支配権  
は？

(答) ボールがアシストキャッチしようとした外野選手の手に触れ、その後、床等に接した時点で  
アシストキャッチ不成立となり、アタックされボールに当たったプレイヤーはアウトになる。ま  
た、外野プレイヤーはワンタッチとなり、この外野プレイヤーにボールの支配権が発生する。

### ※ルール第805条 アシストキャッチ 1)

「・・・ボールが空中にある間に、味方のプレイヤーまたは当てられたプレイヤー自身がノーバウンドで  
ファール無くキャッチしたことをいい・・・」

### ※ルール第809条 ボールの支配権 2) ①

「最後にボールに触れたプレイヤーが外野プレイヤーの場合、その際にファールすることなく手でボール  
に触れた場合そのプレイヤーにボールの支配権が発生する。(ワンタッチ)・・・」

(問10) アウトになった内野選手が、外野への移動中に自内野コート内で偶然アタックやパスの  
ボールに当たりそのままアウトオブバーンズになった場合の判定および支配権は。

(答) 公式規則第809条3) のとおり

## 審判テクニカル

— Q & A2003Ver.1.0 —

### ※ルール第809条 ボールの支配権 3)

「アウトになったプレイヤーが自チームの内野エリア内を移動中に再び当てられたり、掠ったりした後、直接、アウト・オブ・バーンズになった場合のボールの支配権は、その前に触ったプレイヤーに対して、第809条2」①、②を適用する。」

(問 11) インプレイ中、片足をインプレイゾーンから出していた選手が、そのまま走り込んでボールキャッチに関わる場面があるが、ファールの適用はできないか。

(答) この状況でファールを適用する規則はない。

「アウトプレイ」ファールは、片足をインプレイゾーンに残し、もう一つの片足をボールデッドゾーンに出した状態では適用できない。ただし、インプレイゾーンの片足を床等から離れた時点で「アウトプレイ」ファールとなる。また、「オーバーライン」ファールはボールを保有しているプレイヤーに適用される。

### ※ルール第916条 アウトプレイ

「インプレイ中プレイヤーは自エリア以外でプレイしてはならない。この場合ファールとなりボールの支配権は相手の内野に移動する。」

### ※ルール第904条 オーバーライン

「インプレイ中ボールを保有したプレイヤーはラインを踏んだり、越えてはならない。この場合ファールとなりボールの支配権は相手の内野に移動する。」

(問 12) アタック成功し自内野コートへの復帰を審判員の後方にて待機している選手が、ボールデッドゾーンに転がり出そうになったルーズボールをその瞬間に内野復帰しキャッチしてプレイした場合、不自然な状態が発生する場面がある。「内野復帰の際には自コートのボールに触れてはならない」などのルールをつくれぬか。

(答) 内野に復帰しようとしている外野プレイヤーがボールデッドゾーンから内野（インプレイゾーン）に足等が内野の床に接してからボールに触れた場合は問題ないが、足等が床に接する前（外野から内野への移動中）にボールに触れた場合は、その時点で「インターフェア」ファールとなる。

### ※ルール第909条 インターフェア

「プレイヤーが内外野への移動中に故意に相手の投球したボールに触れてはならない。この場合ファールとなりボールの支配権は相手の内野に移動する。」

(問 13) ラインを踏んでいる選手がアウトになった場合、アウトに加えオーバーラインのファールをとられるのか。

(答) ラインを踏んでいるプレイヤーにボールが当たった時点で、ボールを保有したプレイヤーがラインを踏んだという解釈で「オーバーライン」ファールとなる。また、踏んでいるラインの

## 審判テクニカル

— Q & A 2003 Ver.1.0 —

違いによりその後の判定に注意すること。

### ①ボールデッドゾーンと接しているサイドラインの場合

ラインを踏んでいるプレイヤーにボールが当たった時点で「オーバーライン」ファール、ボールデッドで「アウト」となる。

⇒ボールの支配権は相手の内野へ移動する。

### ②外野エリアと接しているサイドライン、バグライン及びセンターラインの場合

ラインを踏んでいるプレイヤーにボールが当たった時点で「オーバーライン」ファール、そのボールが床又はプレイヤーに触れた時点（アシストキャッチ不成立）で「アウト」となる。

⇒a 「アウト」確定直後、ボールの支配権が「オーバーライン」ファールをしたチームにある場合は、相手の内野又は外野へ移動する。

b 「アウト」確定直後、ボールの支配権が「オーバーライン」ファールをしたチームの相手側にある場合は、「アドバンテージ」を適用する。（アウトオブバーンズはこの限りでない）

### ※ルール第904条 オーバーライン

「インプレー中ボールを保有したプレイヤーはラインを踏んだり、越えてはならない。」

### ※ルール第805条 アシストキャッチ 1)

「・・・味方のプレイヤー又は当てられたプレイヤー自身がノーバウンドでファール無くキャッチしたことをいい、・・・」

### ※ルール第921条 アドバンテージ

「主審はファールを認めても、ファールされたチームが有利になるか判断がつかない場合は、ファールを取らずにしばらく経過を見る。その結果、ファールされたチームに有利な場合は、そのまま試合を続行させ、不利な場合は、その時点でファールを取る。ただし、テクニカルファールの場合はこの限りではない。」

(問 14) インプレイゾーンでのアウトプレイ中の選手にアタックした場合の判定は。

(答) 「アウトプレイ」ファールのプレイヤーにボールが当たった時点で、ボールを保有したプレイヤーがラインを越えたという解釈で「オーバーライン」ファール、そのボールが床又はプレイヤーに触れた時点（アシストキャッチ不成立）で「アウト」となる。

なお、この状況で、アタックする側のチームでファールがあった場合、その時点で、相手チームの「アウトプレイ」ファールを取りボールデッドとし、内野から試合再開となる。

⇒a 「アウト」確定直後、ボールの支配権が「オーバーライン」ファールをしたチームにある場合は、「オーバーライン」ファールでボールデッドとし、試合再開は、相手の内野又は外野からとなる。

b 「アウト」確定直後、ボールの支配権が「オーバーライン」ファールをしたチームの相手

## 審判テクニカル

— Q & A2003Ver.1.0 —

側にある場合は、「アドバンテージ」を適用し、そのまま試合を続行させる。(アウトオブバウンズの場合は、内野から試合再開となる)

(補説)「アウトプレイ」ファールと「アドバンテージ」ルールの適用解釈

「アウトプレイ」ファールを認めた時点でファールを適用し、ボールの支配権を相手の内野に移動するところであるが、アタックチャンスになりそうであったためファールされたチームが有利になるか判断がつかず経過をみたが、アタックしたためファールされたチームが有利であると判断し、ファールを取らずに、そのまま試合を続行(アタックさせた)させた。

よって、「アウトプレイ」ファールで「アウト」というルール適用でないことに注意すること。

### ※ルール第904条 オーバーライン

「インプレー中ボールを保有したプレイヤーはラインを踏んだり、越えてはならない。」

### ※ルール第805条 アシストキャッチ 1)

「・・・味方のプレイヤー又は当てられたプレイヤー自身がノーバウンドでファール無くキャッチしたことをいい、・・・」

### ※ルール第916条 アウトプレイ

「インプレー中プレイヤーは自エリア以外でプレイしてはならない。・・・」

### ※ルール第921条 アドバンテージ

「主審はファールを認めても、ファールされたチームが有利になるか判断がつかない場合は、ファールを取らずにしばらく経過を見る。その結果、ファールされたチームに有利な場合は、そのまま試合を続行させ、不利な場合は、その時点でファールを取る。ただし、テクニカルファールの場合はこの限りではない。」

(問15) ボールデッドゾーンでのアウトプレイ中の選手にアタックした場合の判定は。

(答)「アウトプレイ」ファールのプレイヤーにボールが当たった時点で、ボールを保有したプレイヤーがラインを越えたという解釈で「オーバーライン」ファール、ボールデッドで「アウト」となる。

なお、この状況で、アタックする側のチームでファールがあった場合、その時点で、相手のチームの「アウトプレイ」ファールを取りボールデッドとし、内野から試合再開となる。

⇒ボールの支配権は相手の内野へ移動する。

### ※ルール第904条 オーバーライン

「インプレー中ボールを保有したプレイヤーはラインを踏んだり、越えてはならない。」

### ※ルール第805条 アシストキャッチ 1)



## 審判テクニカル

— Q & A 2003 Ver.1.0 —

「・・・味方のプレイヤー又は当てられたプレイヤー自身がノーバウンドでファール無くキャッチしたことをいい、・・・」

### ※ルール第916条 アウトプレイ

「インプレイ中プレイヤーは自エリア以外でプレイしてはならない。・・・」

### ※ルール第921条 アドバンテージ

「主審はファールを認めても、ファールされたチームが有利になるか判断がつかない場合は、ファールを取らずにしばらく経過を見る。その結果、ファールされたチームに有利な場合は、そのまま試合を続行させ、不利な場合は、その時点でファールを取る。ただし、テクニカルファールの場合はこの限りではない。」

(問 16) インプレイ中、ゲーム進行から遅れて線審からタイムの要求があり、協議の結果、判定がゲーム進行より戻る場合があるが、この時の試合再開はどのようになるのか。

(答) 線審のアピールの内容(協議の結果)によって試合再開及び計時の止まるタイミングが違うことに注意すること。以下に、そのシーンを例に記述する。

#### (答1) 「アウト」(アウトプレイヤーが、直後にプレイした) のアピールの場合

アウト後の試合進行は認められない。

⇒試合再開は、アウトプレイヤーの内野からとなる。

⇒計時は、アウト後のプレイは認められないので、アウト確定時点まで時間を戻す。(主審のオフィシャルタイムアウトの時点より時間を戻す。)

(シーン1) 外野からの投球をキャッチした内野Aプレイヤーが振り向きざまに相手内野Bプレイヤーへアタックし、アウトにした。この時、線審から「タイム要求」ホイッスルがあり、主審は、線審からやや遅れてオフィシャルタイムアウトを取り協議した。線審の「内野Aは明らかにボールを落としている」とのアピールを認め内野Aをアウトとし、内野Bはセーフとした。試合再開は、Aチームの内野からとした。

#### (答2) 「アウト」(アウトプレイヤーが、直後にプレイしていない) のアピールの場合

アウト後の試合進行は認められる。

⇒試合再開は、線審の「タイムの要求」ホイッスルの時点でのボールの支配権保持チームからとなる。

⇒計時は、主審のオフィシャルタイムアウトの時点で止める。

(シーン2) 外野Aプレイヤーからの投球が内野B1プレイヤーに当たりそのまま内野Aプレイヤーに渡り、続いて内野Aは内野B2へアタックし、アウトにした。この時、線審から「タイム要求」ホイッスルがあり、主審は、線審からやや遅れてオフィシャルタイムアウトを取り協議した。線審の「最初の内野Bは明らかに当たっている」とのアピールを認め内野B1をアウトとし、

## 審判テクニカル

— Q & A2003Ver.1.0 —

続いてアウトとした内野B 2の判定も変えずにアウトとした。試合再開は、主審がオフィシャルタイムアウトを取った時点で内野Bチームの選手がボールを保持していたのでBチームからとした。

(問 17) 外野からの投球をキャッチした内野Aプレイヤーが攻撃に移ろうとしてドリブルをした。この時、主審は内野Aがボールを落としたと判定し、遅れてアウトコールをした。また、ドリブルしていたため、ダブルタッチファールを取り、ボールの支配権を相手チームの内野へ移動させた。この判定は正しいか。

(答) 主審のアウトコール前のドリブルに対し、「ダブルタッチ」ファールを適用することはできない。

アウトコール後に次の行為があった場合は、「ダブルタッチ」ファールとなる。

- ①すぐに足元にボールを置かなかった。
- ②足を動かした。
- ③ボールの行き先（方向）をコントロールした。

### ※ルール第908条 ダブルタッチ

「アウトになったプレイヤーが外野への移動中に自エリア内で自ら再びボールに触れてはならない。」

(問 18) ジャンパーがタップしたボールがプレイヤーに触れずそのままボールデッドとなり内野から試合再開され、その第1投目が、相手ジャンパーをアタックしアウトにした。主審は「ジャンパーアタック」ファールでセーフとしたが正しいか。

(答) 「ジャンパーアタック」ファールは適用されない。相手ジャンパーはアウトとなる。ボールデッドになった時点で、「ジャンパーアタック」ファールを適用する条件は無くなる。

### ※ルール第913条 ジャンパーアタック

「ジャンパーがタップしたボールをキャッチした内野プレイヤーは、相手チームのジャンパーを第1投目で攻撃してはならない。」

(問 19) 試合残り約1分の時点で、明らかに勝ち逃げのため、攻撃をかけずに時間稼ぎと思えるパスを繰り返した。主審を含む審判団（6人）は、遅延行為ではと思いつつ判定を下さず試合は終了した。この様な状況の時、コートマスターは、オフィシャルタイムアウトを取り、主審に遅延行為の判定を下すように促すべきではなかったか。

(答) 公式規則では、この様な状況を「遅延行為」として罰する規定はない。

公式規則で遅延行為として規定されている罰は、「ボールデッド時に試合の再開を不当に遅らせ、ゲームの進行を妨げる。」、この様な状況のとき、テクニカルファールの適用となる。

また、コートマスターの職権であるオフィシャルタイムアウトを取ることでできる規定にも該当しない。